



平成30年1月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年9月8日

上場会社名 トミタ電機株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 6898 URL http://www.tomita-electric.com  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)神谷 哲郎  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)神谷 陽一郎 (TEL)0857(22)8441  
 四半期報告書提出予定日 平成29年9月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年1月期第2四半期の連結業績(平成29年2月1日～平成29年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年1月期第2四半期	758	10.5	33	—	36	—	66	—
29年1月期第2四半期	686	△16.1	△67	—	△194	—	△195	—

(注) 包括利益 30年1月期第2四半期 △4百万円(—%) 29年1月期第2四半期 △231百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年1月期第2四半期	100.06	—
29年1月期第2四半期	△297.09	—

(注) 平成29年8月1日付で、普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年1月期第2四半期	4,491	3,569	79.5
29年1月期	4,525	3,573	79.0

(参考) 自己資本 30年1月期第2四半期 3,569百万円 29年1月期 3,573百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年1月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年1月期	—	0.00	—	—	—
30年1月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年1月期の連結業績予想(平成29年2月1日～平成30年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,557	9.4	50	—	53	—	80	—	122.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成29年8月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。これに伴い平成30年1月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、株式併合の影響を考慮しております。詳細は「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年1月期2Q	816,979株	29年1月期	816,979株	
② 期末自己株式数	30年1月期2Q	157,328株	29年1月期	157,278株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年1月期2Q	659,661株	29年1月期2Q	659,726株

(注) 平成29年8月1日付で、普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項等については、四半期決算短信(添付資料) P.2「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(株式併合後の連結業績予想について)

平成29年4月26日開催の第66期定時株主総会の決議により、平成29年8月1日付で普通株式10株を1株に株式併合いたしました。

なお、株式併合を考慮しない場合の平成30年1月期の連結業績予想は以下のとおりであります。

平成30年1月期の連結業績予想 1株当たり当期純利益 通期 12円20銭

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(重要な後発事象)	8
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済といたしましては、米国は政治不安とは別に、個人消費や企業業績が安定的に推移し、欧州経済は先行きの不透明感があるものの、回復基調で推移いたしました。また、中国経済はインフラ投資や輸出の増加に支えられて景気に回復の兆しが見られ、新興国経済も資源価格の安定により緩やかな回復傾向が続きまして。

我が国経済におきましては、個人消費や企業の生産活動に持ち直しの動きがみられるものの、人手不足も影響して横ばい状態となりました。

当電子部品業界といたしましては、スマートフォンは底入れ感が見られ、車載関連は順調に推移しました。海外のICT関連が回復し、産業機器分野では半導体製造装置関連、磁気センサ関連、並びに電流センサ関連の需要が引き続き堅調に推移いたしました。

この様な市場環境の中で当社グループは、小型フェライトコア並びにコイル・トランス製品を中心とした拡販活動を国内外市場で積極的に展開いたしました。また、海外での製造原価低減と品質改善に取り組み、世界競争に打ち勝つことの出来る高性能で高品質の製品を生産すべく活動を続けてまいりました。

当第2四半期連結累計期間のフェライトコア販売、コイル・トランス販売は国内外市場で堅調に推移し、売上高は7億5千8百万円（前年同四半期比10.5%増加）となりました。

損益面では、売上高の回復、原価率の低減、経費等の削減に努めた結果、営業利益は3千3百万円（前年同四半期は6千7百万円の営業損失）となりました。経常利益は3千6百万円（前年同四半期は1億9千4百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6千6百万円（前年同四半期は1億9千5百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (1) 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べて3千3百万円減少し、44億9千1百万円となりました。このうち、流動資産は23億1千9百万円、固定資産は21億7千1百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べて2千9百万円減少し、9億2千2百万円となりました。このうち、流動負債は1億9千1百万円、固定負債は7億3千1百万円となりました。

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べて4百万円減少し、35億6千9百万円となりました。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ3百万円増加し、12億5千2百万円（前第2四半期連結会計期間末残高は9億7千4百万円）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によって減少した資金は、2千5百万円（前年同期は5百万円の減少）となりました。これは主に、売上債権及びその他の流動資産の増加並びにその他の流動負債の減少によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によって増加した資金は、5千1百万円（前年同期は1千7百万円の増加）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出があったものの、投資有価証券の売却による収入によるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によって減少した資金は、3百万円（前年同期は2百万円の減少）となりました。これは主に、リース債務の返済による支出によるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、平成29年9月5日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,249,385	1,252,881
受取手形及び売掛金	440,351	479,955
商品及び製品	199,676	179,368
仕掛品	238,338	221,285
原材料及び貯蔵品	134,874	132,337
その他	32,727	54,366
貸倒引当金	△704	△634
流動資産合計	2,294,651	2,319,559
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	228,601	210,951
機械装置及び運搬具(純額)	16,693	19,155
土地	1,715,312	1,715,312
リース資産(純額)	7,581	6,810
建設仮勘定	—	23,507
その他(純額)	5,637	4,876
有形固定資産合計	1,973,826	1,980,613
無形固定資産	47,016	74,327
投資その他の資産		
投資有価証券	208,045	115,664
長期前払費用	44	34
その他	2,095	1,574
貸倒引当金	△362	△362
投資その他の資産合計	209,822	116,910
固定資産合計	2,230,665	2,171,851
資産合計	4,525,316	4,491,411

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年1月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	68,807	70,279
未払法人税等	10,772	9,153
未払費用	72,284	56,886
受注損失引当金	413	217
賞与引当金	11,254	19,483
建物解体費用引当金	19,000	—
前受収益	498	498
その他	44,644	34,620
流動負債合計	227,675	191,139
固定負債		
繰延税金負債	21,467	9,825
再評価に係る繰延税金負債	204,932	204,932
退職給付に係る負債	39,291	27,581
役員退職慰労引当金	278,385	284,970
長期前受収益	14,056	13,807
預り保証金	157,103	155,240
その他	9,053	34,902
固定負債合計	724,291	731,260
負債合計	951,966	922,399
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,966,818	1,966,818
資本剰余金	1,334,518	1,330,934
利益剰余金	156,051	225,639
自己株式	△227,107	△227,178
株主資本合計	3,230,281	3,296,214
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	51,201	21,714
土地再評価差額金	311,550	311,550
為替換算調整勘定	△19,683	△60,467
その他の包括利益累計額合計	343,068	272,797
純資産合計	3,573,349	3,569,011
負債純資産合計	4,525,316	4,491,411

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)
売上高	686,624	758,642
売上原価	538,160	510,186
売上総利益	148,463	248,455
販売費及び一般管理費	215,978	214,976
営業利益又は営業損失(△)	△67,514	33,478
営業外収益		
受取利息	123	209
受取配当金	2,404	2,409
金型売却益	1,020	234
スクラップ売却益	793	286
雑収入	398	379
営業外収益合計	4,740	3,519
営業外費用		
支払利息	—	476
為替差損	128,649	19
製品補償費用	1,527	55
雑損失	1,126	250
営業外費用合計	131,302	802
経常利益又は経常損失(△)	△194,076	36,196
特別利益		
固定資産売却益	766	61
投資有価証券売却益	—	32,298
特別利益合計	766	32,360
特別損失		
固定資産除却損	131	0
特別損失合計	131	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△193,442	68,556
法人税、住民税及び事業税	2,553	2,553
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△195,995	66,003
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△195,995	66,003

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△195,995	66,003
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11,452	△29,487
土地再評価差額金	10,750	—
為替換算調整勘定	△34,670	△40,783
その他の包括利益合計	△35,372	△70,270
四半期包括利益	△231,368	△4,267
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△231,368	△4,267
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—



## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成28年2月1日 至平成28年7月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成29年2月1日 至平成29年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△193,442	68,556
減価償却費	22,125	25,497
長期前払費用償却額	—	16
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△4,773	△69
賞与引当金の増減額(△は減少)	8,696	8,229
受注損失引当金の増減額(△は減少)	△5,239	△196
建物解体費用引当金の増減額(△は減少)	—	△19,000
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	7,093	△11,709
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	5,847	6,584
受取利息及び受取配当金	△2,528	△2,619
為替差損益(△は益)	102,789	△42
支払利息	—	476
固定資産売却損益(△は益)	△766	△61
固定資産除却損	131	0
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△32,298
売上債権の増減額(△は増加)	48,459	△46,918
たな卸資産の増減額(△は増加)	57,236	27,150
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△13,938	△21,605
仕入債務の増減額(△は減少)	△17,942	2,408
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△16,906	△20,353
その他の固定負債の増減額(△は減少)	△211	△6,928
小計	△3,369	△22,882
利息及び配当金の受取額	2,548	2,629
利息の支払額	—	△476
法人税等の支払額	△4,911	△4,886
営業活動によるキャッシュ・フロー	△5,733	△25,616
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
拘束性預金の払戻による収入	19,939	—
預り保証金の返還による支出	—	△2,340
有形固定資産の取得による支出	△3,419	△30,143
有形固定資産の売却による収入	919	61
投資有価証券の売却による収入	—	83,550
長期前払費用の取得による支出	—	△7
投資活動によるキャッシュ・フロー	17,440	51,121
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	△78	△70
リース債務の返済による支出	△2,093	△3,224
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,171	△3,295
現金及び現金同等物に係る換算差額	△45,142	△18,714
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△35,606	3,495
現金及び現金同等物の期首残高	1,009,869	1,249,385
現金及び現金同等物の四半期末残高	974,263	1,252,881

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(重要な後発事象)

(株式併合及び単元株式数の変更等について)

当社は、平成29年4月26日開催の第66期定時株主総会決議に基づき、平成29年8月1日付で、単元株式数を1,000株から100株へ変更し、普通株式10株につき1株の割合で株式併合するとともに、発行可能株式総数を16,000,000株から1,600,000株に変更しております。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度において営業損失8千7百万円及び経常損失1億4千9百万円、親会社株主に帰属する当期純損失1億2千5百万円となったものの、営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローは増加となり、現金及び現金同等物の残高は2億3千9百万円の増加となりました。また、当第2四半期連結累計期間においては、営業利益3千3百万円及び経常利益3千6百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益6千6百万円を計上する結果となり、当社グループの業績は改善傾向にあります。当第2四半期連結累計期間時点では継続企業の前提に関する注記を開示するまでに至らないものの、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しているものと認識しており、当該状況の解消については年度において判断する考えであります。

当該重要事象等の解消及び経営基盤の安定化に向け、以下記載のとおり取り組んでおります。

- ・当社グループは、車載、産業機器、I o T、医療機器、省エネ・環境分野を主眼に国内外市場での新規開拓に向け、新たに欧州営業窓口を開設し、積極的な営業活動を展開することで販売拡大を図りながら、海外生産工場の継続的な品質改善や経費削減に向けた取り組みを推進し、利益重視の体制を強化してまいります。

重点課題として以下の3点に取り組みます。

- ① 車載、産業機器、I o T、医療機器関連の新規受注獲得
- ② 原価低減に向けた品質改善と省力化、自動化の推進
- ③ 高信頼性、高効率化を目的とした材質開発の推進

- ・研究開発においては、フェライトに関しては、新材質開発、既存材質の改良を行い、フェライトコアの最適設計に採用し市場ニーズに対応した優れた材質を提供しております。世界トップクラス材質である2Nシリーズは車載・医療・通信・産機・セキュリティーの多分野で採用頂いております。また、コイル・トランスは、回路の高密度化・高集積化に伴い小型・効率化に向け、自社製フェライトと融合させ研究開発を行っております。

また、顧客要求及び市場ニーズ対応へのスピードアップを図るべく、研究開発要員の強化並びに試験設備・機器を積極的に導入し、より効果的な研究開発が出来る体制をとっております。

今後の新製品、新技法については、電子機器の小型化・高温化・高周波化に伴う小型・高性能・広温度範囲対応フェライトコア、省エネ対応として更なる低損失・高飽和磁束密度・高透磁率フェライトコアの開発・改良等を進めております。また製造方法におきましても、高級製品対応として、フェライトコアの成型技術・焼成技術・精密加工技術の高度化、低コストの製品設計、試作期間の短縮等を図り顧客開発スピードに寄与させております。

さらに、これらの高性能フェライトコアを使用したコイル・トランスとその応用製品である車載用コンバータートランス、セキュリティーコイル、センサーコイル、LED照明用電源トランス、医療用電源トランス、産機用センサーコイル、各種SMDトランスの開発等、製品領域の拡大に取り組んでおります。一例としまして、未来へ向けた車載用製品を顧客と共同で開発中であり、今後は更に顧客とタイアップした開発案件を増加させます。

当社グループといたしましては、以上のことから、継続企業の前提に関する重要事象等を解消できるものと考えており、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。